

平成28年度研究開発実施報告書（要約）

1 研究開発課題

東日本大震災の教訓や体験を基に、防災教育を中心とした安全教育を独立した領域として創設し、児童が生涯にわたって自助と共助の意識を持って行動していく力（危険を予測し回避する力、安全な社会づくりに貢献する心等）を育む教育課程の研究開発

2 研究の概要

東日本大震災は、地域に甚大な被害をもたらした。震災直後、本校は大規模な避難所となった。互いに助け合い、多くの支援によって困難な状況を乗り越えることができた。震災の体験を教訓として受け継いでいくことは、被災地の小学校の使命と捉える。いつ、どこで、どんな災害に遭遇するか分からない日本において、小学校の段階から災害に対応する能力を育てる意義は大きい。そこで、本校では、教育活動全般を防災の観点から広く見直し、関連付けて、新たな視点で再構築するとともに、教科、領域の内容の一部を統合した新領域「防災安全科」（以下、防災安全科）を全学年に創設した。育てたい資質・能力を定め、目標を設定して内容の体系化を図り、新たな教育課程を編成した。また、地域等、外部との連携を図りながら地域素材を教材化し、児童自らが知識を習得し、活用していくような指導方法を工夫した。さらに、防災安全科では、日常から安全に気を付けて行動する児童を目指して、災害安全（防災）の内容に生活安全と交通安全の内容の一部を含めて再構成した。

3 研究の目的と仮説等

（1）研究仮説

教科・領域等に散在していた防災教育を中心とした安全教育に関連する内容を統合した防災安全科を創設し、新領域を通して身に付けさせたい資質・能力を明確にして、6年間の系統的・発展的な指導法を開発・実践していけば、児童の自助と共助の力を育み、安全で安心な社会づくりのために主体的に行動できる児童を育てることができるのではないかと仮説した。

（2）教育課程の特例

①平成25年度（第1年次）

今までの教育課程の中で防災教育を教科横断的に行った。

②平成26～27年度（第2，3年次）

防災安全科を創設し、新教育課程の中で学習指導を行った。防災安全科で扱う内容は、主に防災とした。全学年で授業時数を平成26年度は20時間、27年度は25時間程度とし、週時程に防災安全科を位置付け、隔週ごとに実施した。

③平成28年度（第4年次）

防災安全科で扱う内容を防災から安全まで広げた。全学年で授業時数を30～35時間とし、週時程に防災安全科を位置付け、週1時間程度実施した。

4 研究内容

(1) 教育課程の内容

◆ 防災安全科が目指すもの

震災の教訓や体験を踏まえ、自らの安全を確保し、周りの人や地域のために役立とうとするとともに、災害に不安を抱くのではなく、自分の将来や社会に夢や希望を持ち、災害に負けない、たくましい子供を育てていく。

創設する防災安全科においては、防災に関する知識を与えられるのではなく、児童自らが自助と共助の力を習得できるようにしていくとともに、自分の将来に対して夢や希望を持ち、学び続ける児童の育成を目指していくこととした。

◆ 防災安全科で育てたい資質・能力

震災の教訓や体験を基にして、育てたい資質・能力を以下のように設定した。

自助と共助の意識を持って行動していく力	
〈自 助〉	〈共 助〉
○ 危険を予測・判断する力 (知識や体験、情報等を基にして、危険を予測し、状況を的確に判断する。)	○ 人とつながる力 (自他の生命を尊重し、他の人や地域の人と積極的に関わろうとする。)
○ 安全を確保する力 (予測や判断を基にして、自らの安全を確保するために主体的に行動する。)	○ 社会とともに歩む心 (地域の一員として、他の人や地域の安全に役立とうとする。)

◆ 防災安全科の目標

日常生活の様々な場面で発生する災害等についての理解を図り、身の回りの危険を予測して、どのように行動すればよいかを判断し、自らの安全を確保しようとする能力の基礎を育てるとともに、他の人や地域の安全に役立とうとする態度を養う。

目標は、次の三つの要素で構成した。

- ①日常生活の様々な場面で発生する災害等についての理解を図り、 **【理解目標】**
- ②身の回りの危険を予測して、どのように行動すればよいかを判断し、自らの安全を確保しようとする能力の基礎を育てるとともに、 **【能力目標】**
- ③他の人や地域の安全に役立とうとする態度を養う。 **【態度目標】**

①は理解に関する目標、②は能力に関する目標、③は態度に関する目標となっている。防災に関する技能については、防災安全科のみで身に付けさせるのは困難であるため、理解に関する目標の中にも含めていくこととした。防災安全科は、各教科と領域から創設した新領域なので、教科と領域の両方の特色が含まれる。ただし、目標においては、目標と内容、評価を一体化させ、より汎用性のある目標にしていくため、教科型の目標を参考に設定した。さらに、それぞれの発達段階を考慮しながら学年部の目標を設定した。

◆ 防災安全科の内容構成について

現行学習指導要領の各教科・領域に含まれる防災関連の内容と現行学習指導要領の各教科・領域にはない新たな内容を加え、防災安全科で取り扱う内容とした。

内容は、六つで構成される。A、B、C、Dは主に自助、EとFは主に共助に関わる。また、A、B、Cは主に理解目標、Dは主に能力目標、EとFは主に態度目標に関わる内容である。さらに、六つの構成を21項目に細分化した。なお、A(5)「日常生活や交通場面における危険を理解する」は、生活安全や交通安全に関する内容の一部を平成28年度に追加したものである。

内容構成と取扱い

内容構成と項目		内容の取扱いと選択	選択の仕方						
			1年	2年	3年	4年	5年	6年	特支
A 災害等の理解	(1) 災害の種類や特徴	A(1)は、全学年ともに扱う。A(2), A(3), A(4)は、第4, 5, 6学年でそれぞれ1, 2項目を選択して扱う。A(5)は、生活安全, 交通安全の一部を防災と関連させて扱う。	○	○	○	○	○	○	○
	(2) 発生メカニズムや被害					○	○	○	
	(3) 過去の災害・伝承		○	○	○	○	○		
	(4) 災害防止や復旧・復興(公助)					○		○	
	(5) 生活安全, 交通安全		○	○	○	○	○	○	○
B 命を守る方法	(1) 身の守り方や避難の仕方	Bは、全学年ともに、B(1), B(2), B(3), B(4)からそれぞれ1項目を選択して扱う。	○	○	○		○	○	○
	(2) 情報を生かす方法		○				○	○	○
	(3) 応急手当の方法				○		○		
	(4) 生き抜く知恵と技能			○	○	○			○
C 備え	(1) 家庭での備え	C(1)またはC(2)は、全学年ともに、それぞれ1項目を選択して扱う。		○	○	○	○		○
	(2) 学校や地域での備え(公助)		○		○	○	○	○	○
D 予測・判断	(1) 危険の予測	D(1)とD(2)は、全学年ともに扱う。他項目と関連して扱う。	○	○	○	○	○	○	○
	(2) 安全のための判断		○	○	○	○	○	○	○
E 支援者の基盤	(1) 強い心と冷静な行動	Eは、主に第1, 2, 3学年で扱う。E(1)とE(3)は、各教科・領域で扱い、関連を図る。					○		○
	(2) 感謝や思いやりの心		○		○	○			○
	(3) 自然愛護と生命尊重							○	
	(4) 他者との関わり		○	○		○			○
F 社会貢献	(1) 被災者の支援	Fは、主に第4, 5, 6学年で扱う。F(1), F(2), F(3), F(4)から1, 2項目を選択して扱う。				○		○	
	(2) 教訓の伝承				○	○	○	○	
	(3) 家庭や地域に役立つこと			○		○	○	○	○
	(4) 夢や希望		○	○		○		○	○

※塗りつぶし：平成26年度に設定した選択内容 ○：平成28年度に選択した内容

◆ 内容の取扱いについて

小学校の段階では、自助の力を育てる中で共助の素地も養う。従って、A, B, C, Dの自助に関する内容を取り扱う中で、E, Fの共助に関する内容も取り扱っていく。

30～35時間という防災安全科の限られた授業時数において、内容として設定した上記の21項目を学年ですべて取り扱うことは困難だった。そこで、各学年で21項目の中からいくつかを選択していくこととした。発達段階に応じて、第1, 2, 3学年は8項目程度、第4, 5, 6学年は10項目程度を選択していくこととした。なお、特別支援学級においては、個々の児童の実態に応じて、選択するこ

ととした。

ただし、各学年の年間指導計画と単元は、毎年、見直しを行い、加除・修正するため、平成28年度に選択した内容は、平成26年度に設定した選択内容と異なるものとなった。

◆ 教科等との関連

新領域・防災安全科を教育課程の中に位置付けたことにより、防災安全科が核となって教科や道徳、総合的な学習の時間、特別活動をつなぐ役目を果たすようになった。防災安全科の学びから各教科・領域の学びへ、あるいは、各教科・領域の学びから防災安全科の学びへ、双方向のつながりが見られるようになった。

研究当初は、授業時数の移行に伴い、内容も防災安全科に移行したかどうか課題となった。授業時数の移行に伴って内容を移行した各教科・領域は、道徳、総合的な学習の時間、特別活動（学級活動）である。授業時数のみ移行して内容を移行しなかった各教科・領域は、国語、生活、社会、理科、家庭、体育（保健）である。領域から授業時数・内容ともに防災安全科へ移行することはできたが、教科から単元の内容をすべてあるいは一部を切り取って防災安全科へ移行することは困難だった。その結果、内容を二重に扱う場合も見られた。逆に、そのことによって防災安全科と教科との関連が図られるようになったとも言える。

◆ 教材開発と単元づくり

1年次は、防災安全科で育てたい資質・能力や目標、内容の設定と並行して、各学年で教材開発と単元づくりを行った。しかし、設定した単元は、実践を伴わない素案の段階であり、具体的な学習活動を設定するまでには至らなかった。2～3年次は、1年次で設定した単元案を基に実践授業に取り組み、年間指導計画と具体的な単元計画を作成した。4年次は、全学年ともに生活安全と交通安全の単元を追加した。1、2年生は、日常の生活安全と交通安全を中心に扱う中で、防災を関連させていくような単元に修正した。それ以外の学年においても、単元の配列を入れ替えたり内容を見直したりするなど、実践授業を行う中で年間指導計画や単元計画を更に加除・修正した。

◆ 指導方法について

防災安全科には教科書も指導書もない。仙台版防災教育副読本を活用しながら学習を進めてきた。研究当初は、型にはめ込み、知識を教え込むような授業になることもあった。しかし、そのような指導方法では、いつ、どこで、どんな災害に遭遇するか分からない状況において児童に自らの安全を確保する自助の力を培うことは困難である。そこで、防災安全科では、児童自らが気づき、追究していくような学習モデルを作成し、それを常に意識して授業を行ってきた。自分のこととして考える、調査や体験活動から知識を習得する、得た知識を活用していくなど、児童が主体的に学習していくことができるよう、授業ごとに視点を設定して実践を積み重ねた。

- ①出合う 学習する対象と出合う場面。
- ②気付く 出合った学習対象に深く関わる場面。
- ③考える 課題に対する自分なりの予想や解決方法を考え、試行錯誤する場面。
- ④共有する 自分と友達の考えを共有する場面。
- ⑤まとめる 共有した考えをまとめる場面。
- ⑥つなげる まとめた学習を基に、自分にできることを考えたり、新たな課題を見いだしたりする場面。
- ⑦向き合う 今の自分と向き合いながら学習を進める場面。

◆ 学習評価について

防災安全科の目標を受けて、学習評価の観点は、「知識・理解」，「思考・判断・表現」，「態度」とした。

「技能」については、目標と同様に、「知識・理解」の中に含めていくこととした。教科で行うペーパーテストによる点数化は行わず、次のような評価方法を取った。なお、通信票には、総合的な学習の時間や外国語活動と同様に文章で評価を記述した。

- ①観察による評価 発表，机間指導，訓練，話し合い活動での発言，様子（ペア，グループ，全体）
- ②ポートフォリオ評価 防災安全科用のファイルにワークシートを貯めていく
- ③制作物による評価 防災マップ，防災ノート，ガイドブック，防災新聞，行動宣言，ゲーム，ポスター，標語
- ④パフォーマンス評価 ロールプレイ，シミュレーション，避難訓練
- ⑤自己評価や相互評価 振り返りシート，感想，授業内の交流場面
- ⑥他者評価 保護者，ゲストティーチャー，地域の方による評価，他学年

「態度」の評価については、限られた授業時数の中で見取ることは困難だった。また、実際の地震や集中豪雨の際にどのように行動するかを見取ることもできなかった。しかし、育てたい資質・能力は自助と共助の意識を持って行動していく力である。従って、防災安全科の授業で学習したことを基に、避難訓練でどのように行動したか、家庭での備えを家族とともに行ったかなど、実際の行動や実践の様子から「態度」の変容を見取る場合もあった。

(2) 研究の経過

	実施内容等
第1年次	<p>準備段階である1年次は、仙台市教育委員会と連携しながら研究組織を編成するとともに、新領域・防災安全科の創設に向けて、研究開発課題と研究仮説の設定、研究の方向性の確認、新たな教育課程の編成（授業時数、資質や能力、目標、内容）等を主に行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育課程の編成 <ul style="list-style-type: none"> ・「防災安全科開発委員会」を設置し、教育課程作成の指針を策定した。 ・震災時の子供たちの様子を振り返り、育てたい資質・能力に整理し、防災安全科の目標を設定した。 ・現行学習指導要領の中にある防災関連の内容を洗い出したり新たに加えたりすることにより、防災安全科で扱う内容を整理した。 ○ 授業実践と学習プログラムの作成 <ul style="list-style-type: none"> ・上学年，下学年で研究授業を行い，単元づくりや指導方法を検討した。 ・目標と内容を基に，各学年で学習プログラムを作成した。ただし，それは素案の段階であり，具体の学習活動には至らなかった。 ○ その他 <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による講演会や研修会の実施，先進校の視察を行って研修を深めた。
第2年次	<p>実践段階である2年次は、新たな教育課程として編成した新領域・防災安全科を他校、他地域においても実践可能なものにするため、「学習指導要領防災安全科」及び「学習指導要領解説防災安全科編」を作成した。さらに、1年次に作成した学習プログラムの素案を基に授業実践を行い、各学年で年間指導計画を作成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育課程の編成 <ul style="list-style-type: none"> ・防災安全科の目標と内容，評価を再構成し，さらに学年部ごとの目標と内容を設定した。 ・「学習指導要領防災安全科」及び「学習指導要領解説防災安全科編」を作成した。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業実践と年間指導計画の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・全学年で研究授業を行い，授業を通して内容や指導方法を整理した。 ・授業実践を基に学習プログラムを加除・修正し，学年ごとの年間指導計画を作成した。 ○ その他 <ul style="list-style-type: none"> ・研究における専門部を設置するなど，全教職員による実践的な校内体制を整えた。 ・外部講師による講演会や研修会の実施，先進校の視察を行って研修を深めた。 ・授業参観等での防災安全科の授業，地域防災訓練の実施等，保護者・地域の理解を深めた。
第3年次	<p>実践段階である3年次は，作成した学習指導要領解説防災安全科編及び年間指導計画を基に実践を積み重ね，加除・修正を行って改善を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育課程の編成 <ul style="list-style-type: none"> ・防災安全科の教育課程及び学習指導要領の改善を図った。 ○ 授業実践と年間指導計画の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画を見直し，単元ごとの具体的な指導計画を作成した。 ・全学年で研究授業を行い，授業を通して内容や指導方法を整理した。 ○ その他 <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による講演会や研修会の実施，先進校の視察を行って研修を深めた。 ・授業参観等での防災安全科の授業，地域防災訓練の実施等，保護者・地域の理解を深めた。
第4年次	<p>確立段階である4年次は，生活安全，交通安全の内容の一部を加え，防災を核とした安全教育の教育課程として再編成した。より主体的な学習プログラムや指導方法を目指して実践を積み重ねた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教育課程の編成 <ul style="list-style-type: none"> ・生活安全，交通安全の内容の一部を加え，防災を核とした安全教育の教育課程として再編成した。1，2年生は年間30時間，3年生以上は年間35時間の授業時数とした。 ○ 授業実践と年間指導計画の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・生活安全，交通安全の単元を追加した年間指導計画を作成した。 ・全学年で研究授業を行い，授業を通して内容や指導方法を整理した。 ○ その他 <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師による講演会や研修会の実施，先進校の視察を行って研修を深めた。 ・授業参観等での防災安全科の授業，地域防災訓練の実施等，保護者・地域の理解を深めた。

(3) 評価に関する取組

	評価方法等
第1年次	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防災安全科における学習評価の観点を設定した。 ○ 児童，保護者，地域関係者，教職員対象の意識調査を実施した。(12月実施) ○ 運営指導委員会を開催し，教育課程や指導方法等について評価を受けた。
第2年次	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究組織の中に評価部会を設置して，学習評価及び研究成果の評価の在り方を検討した。 ○ 防災安全科における学習評価の観点を再設定し，目標と内容，評価の一体化を図った。 ○ 設定した学習評価の観点を基に，授業実践や防災・避難訓練等を通して児童の変容を見取った。 ○ 児童の変容の様子から学習プログラムの改善を図った。 ○ 運営指導委員会を開催し，教育課程や指導方法等について評価を受けた。 ○ 児童，保護者，地域関係者，教職員対象の意識調査を実施して変容を見取った。(12月実施)

第3年次	<ul style="list-style-type: none"> ○ 設定した学習評価の観点を基に、授業実践や防災・避難訓練等を通して児童の変容を見取った。 ○ 児童の変容の様子から学習プログラムの改善を図った。 ○ 運営指導委員会を開催し、教育課程や指導方法等について評価を受けるとともに公開授業への指導・助言を受けた。 ○ 児童、保護者、地域関係者、教職員対象の意識調査を実施して変容を見取った。(1月実施) ○ 公開研究会(中間)を行い、広く外部評価を受けた。
第4年次	<ul style="list-style-type: none"> ○ 設定した学習評価の観点を基に、授業実践や防災・避難訓練等を通して児童の変容を見取る。 ○ 児童の変容の様子から学習プログラムの改善を図った。 ○ 運営指導委員会を開催し、教育課程や指導方法等について評価を受けるとともに公開授業への指導・助言を受けた。 ○ 公開研究会(最終)を行い、広く外部評価を受けた。 ○ 児童、保護者、地域関係者、教職員対象の意識調査を実施して変容を見取る。(1月実施)

5 研究開発の成果

(1) 実施による効果

児童、保護者、地域関係者、教職員対象の意識調査(平成25年12月、平成26年12月、平成28年1月)を実施した。

①児童への効果

■とてもある ■ある □あまりない ■まったくない ■無回答

B 命を守る方法	地震時に身の安全に気を付けている	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>とてもある</th> <th>ある</th> <th>あまりない</th> <th>まったくない</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度児童</td> <td>50.1%</td> <td>35.1%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成26年度児童</td> <td>51.0%</td> <td>34.2%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成27年度児童</td> <td>54.2%</td> <td>31.6%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	とてもある	ある	あまりない	まったくない	無回答	平成25年度児童	50.1%	35.1%				平成26年度児童	51.0%	34.2%				平成27年度児童	54.2%	31.6%			
	年度	とてもある	ある	あまりない	まったくない	無回答																				
平成25年度児童	50.1%	35.1%																								
平成26年度児童	51.0%	34.2%																								
平成27年度児童	54.2%	31.6%																								
	登下校中に身の安全に気を付けている	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>とてもある</th> <th>ある</th> <th>あまりない</th> <th>まったくない</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度児童</td> <td>27.8%</td> <td>35.8%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成26年度児童</td> <td>34.5%</td> <td>37.2%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成27年度児童</td> <td>37.2%</td> <td>35.4%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	とてもある	ある	あまりない	まったくない	無回答	平成25年度児童	27.8%	35.8%				平成26年度児童	34.5%	37.2%				平成27年度児童	37.2%	35.4%			
年度	とてもある	ある	あまりない	まったくない	無回答																					
平成25年度児童	27.8%	35.8%																								
平成26年度児童	34.5%	37.2%																								
平成27年度児童	37.2%	35.4%																								
C 備え	災害に備えて水や食料などを備蓄している	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>とてもある</th> <th>ある</th> <th>あまりない</th> <th>まったくない</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度児童</td> <td>35.6%</td> <td>26.1%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成26年度児童</td> <td>33.1%</td> <td>28.1%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成27年度児童</td> <td>34.1%</td> <td>30.5%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	とてもある	ある	あまりない	まったくない	無回答	平成25年度児童	35.6%	26.1%				平成26年度児童	33.1%	28.1%				平成27年度児童	34.1%	30.5%			
	年度	とてもある	ある	あまりない	まったくない	無回答																				
平成25年度児童	35.6%	26.1%																								
平成26年度児童	33.1%	28.1%																								
平成27年度児童	34.1%	30.5%																								
	家族で連絡を取り合う方法を決めている	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>とてもある</th> <th>ある</th> <th>あまりない</th> <th>まったくない</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度児童</td> <td>13.1%</td> <td>18.3%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成26年度児童</td> <td>20.2%</td> <td>22.2%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成27年度児童</td> <td>15.4%</td> <td>22.0%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	とてもある	ある	あまりない	まったくない	無回答	平成25年度児童	13.1%	18.3%				平成26年度児童	20.2%	22.2%				平成27年度児童	15.4%	22.0%			
年度	とてもある	ある	あまりない	まったくない	無回答																					
平成25年度児童	13.1%	18.3%																								
平成26年度児童	20.2%	22.2%																								
平成27年度児童	15.4%	22.0%																								
E 支援者の基盤	「ありがとう」とお礼を言える	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>とてもある</th> <th>ある</th> <th>あまりない</th> <th>まったくない</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度児童</td> <td>66.3%</td> <td>27.5%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成26年度児童</td> <td>70.0%</td> <td>24.9%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成27年度児童</td> <td>69.0%</td> <td>24.0%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	とてもある	ある	あまりない	まったくない	無回答	平成25年度児童	66.3%	27.5%				平成26年度児童	70.0%	24.9%				平成27年度児童	69.0%	24.0%			
	年度	とてもある	ある	あまりない	まったくない	無回答																				
平成25年度児童	66.3%	27.5%																								
平成26年度児童	70.0%	24.9%																								
平成27年度児童	69.0%	24.0%																								
	自分から進んで挨拶をしている	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>とてもある</th> <th>ある</th> <th>あまりない</th> <th>まったくない</th> <th>無回答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度児童</td> <td>48.6%</td> <td>34.6%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成26年度児童</td> <td>50.9%</td> <td>31.2%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成27年度児童</td> <td>50.2%</td> <td>31.3%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	とてもある	ある	あまりない	まったくない	無回答	平成25年度児童	48.6%	34.6%				平成26年度児童	50.9%	31.2%				平成27年度児童	50.2%	31.3%			
年度	とてもある	ある	あまりない	まったくない	無回答																					
平成25年度児童	48.6%	34.6%																								
平成26年度児童	50.9%	31.2%																								
平成27年度児童	50.2%	31.3%																								

F 社会貢献	防災や復興のために行動している	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>自己の力で行動する</th> <th>他人と協力して行動する</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度児童</td> <td>12.9%</td> <td>25.7%</td> </tr> <tr> <td>平成26年度児童</td> <td>11.6%</td> <td>24.2%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度児童</td> <td>13.1%</td> <td>23.6%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	自己の力で行動する	他人と協力して行動する	平成25年度児童	12.9%	25.7%	平成26年度児童	11.6%	24.2%	平成27年度児童	13.1%	23.6%
年度	自己の力で行動する	他人と協力して行動する												
平成25年度児童	12.9%	25.7%												
平成26年度児童	11.6%	24.2%												
平成27年度児童	13.1%	23.6%												

意識調査の結果を全体的に見ると、大きな意識の変容は見られないが、震災の記憶の風化が懸念される現状において、児童の防災意識があまり低下せずには保たれていると言える。意識調査の結果と教師による見取りから、育てたい資質・能力である自助と共助の変容は、以下のとおりである。

《自助の意識を持って行動していく力》

A「災害等の理解」では、教え込みでなく、調査・体験から知識を習得していくような授業を心掛けた結果、徐々に理解が深まってきた。しかし、発生メカニズムやライフラインなど、現行の学習指導要領にはない内容も扱ったため、理解までには至らなかった学習も見られた。児童の発達段階を踏まえて内容を吟味する必要がある。B「命を守る方法」では、「地震時や登下校中に身の安全に気を付けている」という意識が高まってきたと言える。地震の際には教師が指示を出さなくとも机の下にもぐる行動が見られるようになった。C「備え」では、震災の経験を基に「避難場所を確認したり家族で取り決めを話し合ったりしようとする」意識が高まってきたと言える。家庭での備蓄や家具の転倒防止対策などは、主に3、4年生の内容で扱っているので、学習を継続していくことで更に定着が図られると考える。D「予測・判断」では、場面設定を行って安全を確保するためにどのように行動するかを考える授業を行ってきた結果、避難訓練では、安全な避難の仕方を考えながら真剣に参加する姿が見られるようになった。それに加えて、児童の発達段階に応じつつ、教師の指示でなく、自分で判断して行動するような避難訓練を繰り返し行っていく必要がある。

《共助の意識を持って行動していく力》

E「支援者の基盤」では、「お礼を言える」、「自分から挨拶している」という意識が高まったと言える。ただし、地域からは「マナーがなっていない」「挨拶ができていない」という声も若干寄せられているので、ふだんの生活から指導していくとともに、地域の方との「顔の見える関係づくり」が防災や安全にもつながることを実感できるようにしていかなければならない。F「社会貢献」では、主に4年生以上で取り扱う内容なので、意識調査を全体的に見ると低い結果となった。特に、「防災や復興のための行動」については、児童が実際に行動することによって、家庭や地域も動かすことにつながっていく。防災リーダーとして活躍する中学生の姿を見据えて、更に中学校との連携を図っていく必要がある。

平成28年度の全国学力・学習状況調査（6年生対象）の結果において、防災安全科に関わりがあると考えられる主な項目の結果は、以下のとおりである。

難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>挑戦する</th> <th>挑戦しない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本校</td> <td>29.9%</td> <td>48.6%</td> </tr> <tr> <td>宮城県</td> <td>24.6%</td> <td>50.8%</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>25.3%</td> <td>50.8%</td> </tr> </tbody> </table>	地域	挑戦する	挑戦しない	本校	29.9%	48.6%	宮城県	24.6%	50.8%	全国	25.3%	50.8%
地域	挑戦する	挑戦しない											
本校	29.9%	48.6%											
宮城県	24.6%	50.8%											
全国	25.3%	50.8%											
将来の夢や目標を持っていますか	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>夢や目標を持つ</th> <th>夢や目標を持たない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本校</td> <td>59.7%</td> <td>36.8%</td> </tr> <tr> <td>宮城県</td> <td>57.8%</td> <td>35.5%</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>56.3%</td> <td>36.4%</td> </tr> </tbody> </table>	地域	夢や目標を持つ	夢や目標を持たない	本校	59.7%	36.8%	宮城県	57.8%	35.5%	全国	56.3%	36.4%
地域	夢や目標を持つ	夢や目標を持たない											
本校	59.7%	36.8%											
宮城県	57.8%	35.5%											
全国	56.3%	36.4%											
人が困っているときは、進んで助けていますか	<table border="1"> <thead> <tr> <th>地域</th> <th>助ける</th> <th>助けない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本校</td> <td>41.0%</td> <td>43.1%</td> </tr> <tr> <td>宮城県</td> <td>36.3%</td> <td>47.5%</td> </tr> <tr> <td>全国</td> <td>37.0%</td> <td>47.6%</td> </tr> </tbody> </table>	地域	助ける	助けない	本校	41.0%	43.1%	宮城県	36.3%	47.5%	全国	37.0%	47.6%
地域	助ける	助けない											
本校	41.0%	43.1%											
宮城県	36.3%	47.5%											
全国	37.0%	47.6%											

人の役に立つ人間になりたいと思いますか	本校	74.3%	18.1%
	宮城県	69.1%	23.6%
	全国	71.2%	22.6%

全国学力調査の結果を見ると、防災安全科による学力への影響を見いだすまでには至らなかった。しかし、学習状況調査では、自分の将来やこれからの社会に対して夢や希望を持ち、たくましく生きようとする児童の育成を目指した防災安全科の教育の効果が見て取れたと言える。震災の記憶によって災害に不安を抱く児童もいるので、心のケアに配慮しながら一人一人の夢や希望を育てていきたい。

②教師への効果

防災安全科の目的を理解している	<table border="1"> <tr> <td>平成25年度教員</td> <td>17.5%</td> <td>67.5%</td> </tr> <tr> <td>平成26年度教員</td> <td>16.7%</td> <td>58.3%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度教員</td> <td>17.6%</td> <td>70.6%</td> </tr> </table>	平成25年度教員	17.5%	67.5%	平成26年度教員	16.7%	58.3%	平成27年度教員	17.6%	70.6%
平成25年度教員	17.5%	67.5%								
平成26年度教員	16.7%	58.3%								
平成27年度教員	17.6%	70.6%								
防災安全科の指導内容を理解している	<table border="1"> <tr> <td>平成25年度教員</td> <td>7.5%</td> <td>45.0%</td> </tr> <tr> <td>平成26年度教員</td> <td></td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度教員</td> <td>14.7%</td> <td>64.7%</td> </tr> </table>	平成25年度教員	7.5%	45.0%	平成26年度教員		50.0%	平成27年度教員	14.7%	64.7%
平成25年度教員	7.5%	45.0%								
平成26年度教員		50.0%								
平成27年度教員	14.7%	64.7%								
防災安全科の指導方法を理解している	<table border="1"> <tr> <td>平成25年度教員</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成26年度教員</td> <td>25.0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成27年度教員</td> <td>51.1%</td> <td>69.7%</td> </tr> </table>	平成25年度教員			平成26年度教員	25.0%		平成27年度教員	51.1%	69.7%
平成25年度教員										
平成26年度教員	25.0%									
平成27年度教員	51.1%	69.7%								
指導方法を工夫・改善している	<table border="1"> <tr> <td>平成25年度教員</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成26年度教員</td> <td>5.9%</td> <td>47.1%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度教員</td> <td>31.1%</td> <td>75.8%</td> </tr> </table>	平成25年度教員			平成26年度教員	5.9%	47.1%	平成27年度教員	31.1%	75.8%
平成25年度教員										
平成26年度教員	5.9%	47.1%								
平成27年度教員	31.1%	75.8%								
研究開発に積極的に関わりたい	<table border="1"> <tr> <td>平成25年度教員</td> <td>17.5%</td> <td>62.5%</td> </tr> <tr> <td>平成26年度教員</td> <td>16.7%</td> <td>58.3%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度教員</td> <td>26.5%</td> <td>58.8%</td> </tr> </table>	平成25年度教員	17.5%	62.5%	平成26年度教員	16.7%	58.3%	平成27年度教員	26.5%	58.8%
平成25年度教員	17.5%	62.5%								
平成26年度教員	16.7%	58.3%								
平成27年度教員	26.5%	58.8%								
開発・実践を自信を持って行っている	<table border="1"> <tr> <td>平成25年度教員</td> <td>10.0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成26年度教員</td> <td>22.9%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成27年度教員</td> <td>9.9%</td> <td>41.2%</td> </tr> </table>	平成25年度教員	10.0%		平成26年度教員	22.9%		平成27年度教員	9.9%	41.2%
平成25年度教員	10.0%									
平成26年度教員	22.9%									
平成27年度教員	9.9%	41.2%								
開発・実践は満足できるものとなっている	<table border="1"> <tr> <td>平成25年度教員</td> <td>30.0%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成26年度教員</td> <td>51.4%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>平成27年度教員</td> <td>33.3%</td> <td>67.6%</td> </tr> </table>	平成25年度教員	30.0%		平成26年度教員	51.4%		平成27年度教員	33.3%	67.6%
平成25年度教員	30.0%									
平成26年度教員	51.4%									
平成27年度教員	33.3%	67.6%								

研究指定から3年が経過して、防災安全科の教育課程も整えられた結果、教師間で「防災安全科の目的や内容」が共通理解されるようになった。「防災安全科の指導方法」についても、実践を積み重ねる中で理解され、「工夫・改善」が試みられるようになった。それが、研究開発に対する「自信や満足感」に結び付いていると言える。

③保護者等への効果

防災について関心がある	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>項目1 (%)</th> <th>項目2 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度保護者</td> <td>49.3%</td> <td>46.2%</td> </tr> <tr> <td>平成26年度保護者</td> <td>49.0%</td> <td>47.4%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度保護者</td> <td>44.1%</td> <td>52.1%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	項目1 (%)	項目2 (%)	平成25年度保護者	49.3%	46.2%	平成26年度保護者	49.0%	47.4%	平成27年度保護者	44.1%	52.1%
年度	項目1 (%)	項目2 (%)											
平成25年度保護者	49.3%	46.2%											
平成26年度保護者	49.0%	47.4%											
平成27年度保護者	44.1%	52.1%											
小学校で防災教育を行うことは重要である	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>項目1 (%)</th> <th>項目2 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度保護者</td> <td>81.6%</td> <td>17.8%</td> </tr> <tr> <td>平成26年度保護者</td> <td>81.4%</td> <td>17.4%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度保護者</td> <td>81.5%</td> <td>17.6%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	項目1 (%)	項目2 (%)	平成25年度保護者	81.6%	17.8%	平成26年度保護者	81.4%	17.4%	平成27年度保護者	81.5%	17.6%
年度	項目1 (%)	項目2 (%)											
平成25年度保護者	81.6%	17.8%											
平成26年度保護者	81.4%	17.4%											
平成27年度保護者	81.5%	17.6%											
七郷小学校の防災安全科は重要である	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>項目1 (%)</th> <th>項目2 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度保護者</td> <td>62.1%</td> <td>32.3%</td> </tr> <tr> <td>平成26年度保護者</td> <td>66.8%</td> <td>30.0%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度保護者</td> <td>72.1%</td> <td>24.0%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	項目1 (%)	項目2 (%)	平成25年度保護者	62.1%	32.3%	平成26年度保護者	66.8%	30.0%	平成27年度保護者	72.1%	24.0%
年度	項目1 (%)	項目2 (%)											
平成25年度保護者	62.1%	32.3%											
平成26年度保護者	66.8%	30.0%											
平成27年度保護者	72.1%	24.0%											
七郷小学校の防災教育の活動に積極的に参加したい	<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>項目1 (%)</th> <th>項目2 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度保護者</td> <td>11.9%</td> <td>77.4%</td> </tr> <tr> <td>平成26年度保護者</td> <td>14.7%</td> <td>76.0%</td> </tr> <tr> <td>平成27年度保護者</td> <td>14.7%</td> <td>69.9%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	項目1 (%)	項目2 (%)	平成25年度保護者	11.9%	77.4%	平成26年度保護者	14.7%	76.0%	平成27年度保護者	14.7%	69.9%
年度	項目1 (%)	項目2 (%)											
平成25年度保護者	11.9%	77.4%											
平成26年度保護者	14.7%	76.0%											
平成27年度保護者	14.7%	69.9%											

震災で大きな被害を受けた地域であるため、保護者、地域関係者ともに防災安全科が始まる前から「防災への関心」は高く、「小学校で防災教育を行うことは重要である」と考えている方々である。そのような方々の協力で防災安全科の取組を継続して行ってきた結果、「防災安全科設置の重要性」も更に高まってきたと言える。その一方で、「防災教育活動への参加意向」においては保護者がやや低くなってきていることから、震災の記憶の風化が懸念される。

(2) 実施上の問題点と今後の課題

- 編成した教育課程においては、教科から単元の内容をすべてあるいは一部を切り取って防災安全科へ移行することは困難だった。現行の学習指導要領にはない内容を扱ったため、十分な理解までには至らなかった学習も見られた。また、どの学年でどんな内容を扱っていけばよいかを決めて実践を進めたが、実際にはそのようにならない場合もあり、二重の扱いや扱われない内容等が出てしまった。
- 震災時、小学生だった児童が在籍していない現在、児童の記憶から授業を組み立てることは困難な状況となった。児童の直接体験によらない学習プログラムを目指さなければならなかった。防災安全科には教科書という拠り所がない。教師は地域素材を取り上げて教材化を図り、カリキュラムをデザインしていかなければならなかった。しかし、そのような経験があまりないために、児童の実態把握や教師による調査活動が不十分の状態、単元構成を行わなければならない場合もあった。単元で育てたい資質・能力は何かを定め、児童の実態を把握し、目標とゴールを明確化し、教師自身による調査活動によって教材化を図ることが大切であると言える。
- 指導方法においては、子供自らが気付き、追究していくような学習モデルを作成し、授業を行ってきた。しかし、実践当初は、従来の知識を型にはめるような教え込みの授業に陥る場合もあった。自分のこととして考える、調査・体験から知識を習得する、得た知識を活用するなど、児童が主体的に学習していくことができるよう、授業ごとに視点を設定して実践を積み重ねてきた。
- 近年、被災地においても震災の記憶は風化しつつある。毎年、日本のどこかで災害が起きているにも関わらず、教育現場における防災教育への関心は決して高くないのが現状である。研究開発学校の指定はまもなく終了するが、育てたい資質・能力を身に付けさせるためには更に時間を要するため、次年度以降、従来の教育課程に戻った段階でも、本研究の取組を継続・発展させていくことが課題と言える。

仙台市立七郷小学校 教育課程表（平成28年度）

	各教科の授業時数									道徳	外国語活動	特別活動	総合的な学習の時間	防災安全科	総授業時数
	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育						
第1学年	306 -5		136		102 -10	68	68		102	34 -5		34 -10		30	850
第2学年	315 -5		175		105 -10	70	70		105	35 -5		35 -10		30	910
第3学年	245 -3	70 -3	175	90 -3		60	60		105	35 -3		35 -3	70 -20	35	945
第4学年	245 -3	90 -3	175	105 -3		60	60		105	35 -3		35 -3	70 -20	35	980
第5学年	175 -3	100 -3	175	105 -2		50	50	60 -2	90 -2	35 -3	35	35 -5	70 -15	35	980
第6学年	175 -3	105 -1	175	105 -1		50	50	55 -2	90	35 -3	35	35 -5	70 -20	35	980
計	1461 -22	365 -10	1011	405 -9	207 -20	358	358	115 -4	597 -2	209 -22	70	209 -36	280 -75	200	5645

学校等の概要

1 学校名, 校長名

○ 学校名 せんだいしりつしちごうしょうがっこう
仙台市立七郷小学校○ 校長名 たかはし ともお
高橋 智男

2 所在地, 電話番号, FAX番号

○ 所在地 宮城県仙台市若林区荒井字堀添53-2

○ 電話番号 022-288-5024

○ FAX番号 022-288-5157

3 学年・課程・学科別幼児・児童・生徒数, 学級数

(小学校の場合)

第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		特別支援		計	
児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
197	6	193	6	174	5	159	4	175	5	147	4	9	2	1054	32

4 教職員数

校長	副校長	教頭	主幹 教諭	指導 教諭	教諭	養護 教諭	代替 養護教諭	栄養 教諭	講師
1	0	2	1	0	34	2	0	0	6
主幹教諭 後補充講師	A L T	スクールカ ウンセラー	事務 職員	司書	用務 職員	栄養士	給食 技師	支援員	補助員
0	0	1	2	0	3	1	2	0	1
相談員	図書 事務	初任研 後補充	長期 研修						計
1	2	1							60